

農産FAX情報 第4号

令和4年7月1日

発行：ゆとりみらい21推進協議会 指導部会 幕別町忠類地区

1 秋まき小麦

赤かび病の防除

○赤かび病は、湿度が高いと多発しやすく、降雨や濃霧により発生が助長されます。天気が崩れる前に防除を行い、臨機防除を行う際は、薬剤の使用時期・回数に注意しましょう。

2 てんさい

(1) ヨトウガの防除

○6月中旬に幼虫、卵塊を確認しました。発生状況を確認し、若齢幼虫のうちに防除を行いましょう。

(2) 褐斑病および根腐病の防除

○高温多湿条件で発生が多く、連作・短期輪作ほ場、または前年てんさいを作付した隣接ほ場で発生が助長されます。天気予報を注視し、7月上中旬頃に予防防除を行いましょう。

表1 褐斑病および根腐病の防除薬剤例

| 病害名 | 薬剤名 | 使用倍率 | 使用時期 | 使用回数 |
|-----|--------------|-------|------|------|
| 褐斑病 | グリーンダイセンM水和剤 | 500倍 | 21日前 | 5回以内 |
| | ダコニールエース | 750倍 | 30日前 | 3回以内 |
| 根腐病 | ミリオネアフロアブル | 4000倍 | 7日前 | 4回以内 |
| | モンセレン顆粒水和剤 | 1000倍 | 30日前 | 4回以内 |

3 ばれいしょ

(1) 疫病の防除

○着雷期から開花始期の多湿条件で発病しやすくなります。引き続き、予防防除に努めてください。降雨が予想される場合は、ダブルインターバル(14日間の防除間隔)効果のある薬剤を使用しましょう。

(2) 軟腐病の防除

○高温多湿条件で発生が多くなります。また、倒伏等により茎葉が傷つくと発生が助長されるため、気象・茎葉の生育状況に合わせて防除を行いましょう。

○オキシリニック酸剤およびストレプトマイシン剤(例：スターナ水和剤、マテリーナ水和剤など)は耐性菌が出現している地域があります。

表2 軟腐病の防除薬剤例

| 薬剤名 | 使用倍率 | 使用時期 | 使用回数 |
|------------|----------|------|------|
| カスミンボルドー | 500～800倍 | 7日前 | 3回以内 |
| マスターピース水和剤 | 1000倍 | 前日 | — |

(3) オオニジュウヤホシテントウの防除

○6月中下旬に成虫の発生を確認しています。幼虫も成虫も葉を食害するため、発生状況を確認し、防除を実施しましょう。

| 薬剤名 | 使用倍率 | 使用時期 | 使用回数 |
|-------------|--------|------|------|
| ペイオフME液剤 | 2000倍 | 7日前 | 4回 |
| モスピランSL液剤 | 4000倍 | 7日前 | 3回 |
| アドマイヤー顆粒水和剤 | 15000倍 | 14日前 | 2回 |
| アクタラ顆粒水溶剤 | 2000倍 | 14日前 | 3回 |

こまめな水分補給で熱中症対策を！

機械調整時はエンジンを切って！

安全確認で農作業事故防止！